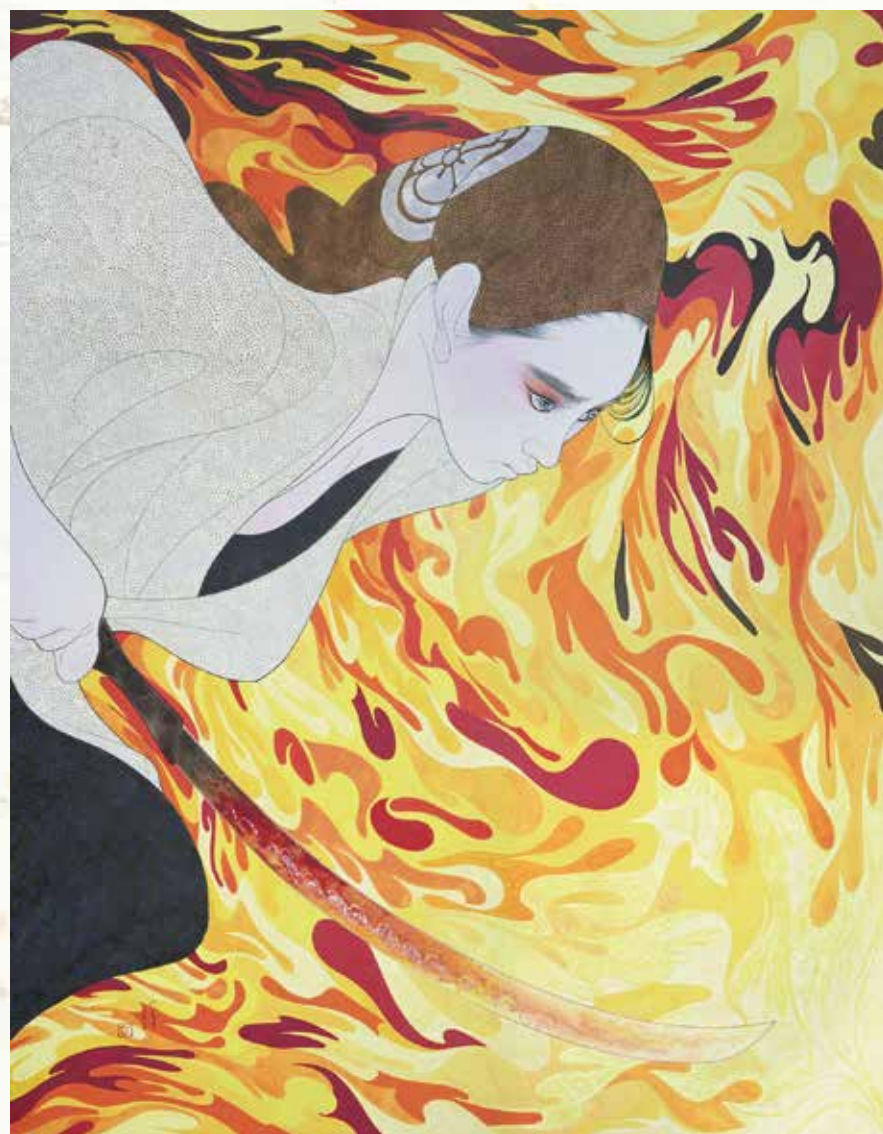


特集

芸術の秋を楽しもう



「歌留多」(部分) 2019年 和紙に岩絵具・顔彩



「刀鍛冶」2021年 和紙に岩絵具・顔彩



「鷹匠」(部分) 2018年 和紙に岩絵具・顔彩



「ねぶた師」2020年 和紙に岩絵具・顔彩



「流鏝馬」2019年 和紙に岩絵具・顔彩

ふるさとのために “風の画家” 中島 潔さん 佐賀新聞社に作品130点寄贈へ

郷愁を誘う童画やはかなげな女性画を得意とし、「風の画家」として知られる中島潔さんが、佐賀新聞創刊140周年を祝い、代表作や未公開作を含む130点を寄贈されることになりました。佐賀新聞社では、作品を受け入れる財団の設立準備を進めるとともに、新聞社内併設のギャラリーで寄贈作品を順次一般公開しています。

130点のうち52点が未発表の作品です。画家を目指してバリ放浪の旅に出た前年の1970年に描いた未発表作品から、令和を生きるしなやかで強い女性像を表現した展覧会「一瞬間の『煌めき』」(2022年、佐賀県立美術館)で発表した「杜氏」や「刀鍛冶」などが含まれています。

中島さんは「僕なりに懸命に描いてきた絵は、僕自身だと思っ。気持ちや体内にふるさとがとて強く残っていて、いずれは作品をふるさとという気持ちがありました」と話されています。

「芸術の秋」の到来です。一年の中で最も穏やかな季節で、美しい絵画などを鑑賞していると、知的好奇心が刺激され、何ともいえない心地よさに満たされます。今回の特集では、「風の画家」として知られる唐津市厳木町出身の中島潔さん(81)が静岡県熱海市に佐賀新聞社に寄贈する作品を一般公開している記念展「ふるさとのために」の魅力とともに、佐賀新聞文化センターの人気講座のいくつかを紹介いたします。

記念展「ふるさとのために」は、作品を順次入れ替えながら開催中です。今回ご紹介している「一瞬間の『煌めき』」の5作品は、現在の第3期では展示されていません。ご了承ください。

懸命に描いてきた絵は、僕自身

18歳で母を亡くし、ふるさとを出て絵を描き始め、81歳になりました。僕の気持ちの中、体内には、ふるさとがとても強く残っています。最初に伊豆の下田で温泉掘りの仕事をしたときに接したみなさんの温かさも絵の基本になっており、子どもや女性の優しさを大切に描いてきました。清水寺のふすま絵、六道珍皇寺の「地獄絵」に続き、令和の女性を描き終えて一区切りがたった時、「最後に描いた作品をふるさとに置ければ」と思いました。佐賀新聞社は140周年と聞きましたが、佐賀の人のことを思い、その幸せに寄り添ってきた企業だと思えます。懸命に描いてきた絵は、僕自身です。両親やおじさんおばさんもよかったと思ってくれると思います。



中島 潔さん

「唐津くんち」2012年 和紙に岩絵具・顔彩



「ベジタリアン」2015年 ケント紙に水彩



「永久への言葉」2017年 和紙に岩絵具・顔彩



「雪の忘れもの」2016年 ケント紙に水彩

冬がテーマの2作品は
第4期で展示される予定です。



「こいさん」2018年 和紙に岩絵具・顔彩

「女性美の情景」など20点 新聞社ギャラリーで展示中



「mail」(部分) 2012年 和紙に岩絵具・顔彩

佐賀新聞社内の併設ギャラリーでは、中島さんが寄贈される作品を一般公開する記念展「ふるさとのために」が8月から定期的に開催されています。展示替えを経て、いまは第3期を迎えており、「女性美の情景」がテーマの作品を中心に20点を展示しています。第3期は11月19日までで観覧無料です。

8月から継続して展示している、金子みすゞの詩をモチーフにした代表作「大漁」をはじめ、「女性美の情景」をテーマにした作品や、ふるさとの秋を描いた作品で構成しており、会場には連日、中島さんのファンが大勢お見えになられています。多久市出身で50年来のファンという女性は「先生が描かれる作品は、わらべから妖艶な女性まで皆すてきです。心が癒やされます」と話されていました。

公開は平日の午前10時から午後5時半まで。新聞社ロビーには、先生がふるさとへの思いを込めた大作「唐津くんち」も展示中です。



第3期では、代表作「大漁」や「女性美の情景」をテーマにした作品など20点を展示している = 佐賀市の佐賀新聞社ギャラリー

佐賀新聞社ギャラリー
住所/佐賀市天神三丁目2番23号
問/総合案内: ☎0952-28-2111
午前10時~午後5時30分

第3期「女性美の情景」
~11月19日まで
観覧無料

